

松本康先生の定年退職にあたって

松本康先生は2020年3月に定年を迎え、立教大学社会学部を退職されました。先生は2006年4月に当時の首都大学東京（現在東京都立大学）から着任され、社会学部に所属されました。学部ではご専門の講義だけでなく、社会調査法などの基礎科目や新設の英語科目もご担当しています。2007年4月から2012年3月まで社会学専攻（後期課程）主任、2015年4月から2019年3月まで社会学部長、社会学研究科委員長を歴任、この間の学部や大学院教育の充実に向けた改革を担ってこられました。

先生のご専門は都市社会学で、シカゴ学派を中心とした学説史、パーソナル・ネットワーク、創造都市の比較研究など、理論面とともに実証的な研究を進めてこられました。学界への貢献も著しく、日本都市社会学会会長（2003年9月～2007年9月）、社会調査協会（旧社会調査士資格認定機構）副会長（2020年6月～）等を歴任しておられます。また日本社会学会では日本社会学会IJJS編集委員（2006年12月～2009年10月）、日本社会学会理事／社会学教育委員会委員長（2015年9月～2018年9月）に就任して、日本の社会学界の指導的な立場として、その発展に寄与してこられました。

先生は、立教大学の教育・研究の向上についても多大な貢献をされています。制度面では立教大学社会学部長時代に国際コースを導入したのをはじめ、大学院社会学研究科のカリキュラム改革などを通じたグローバル化への対応を大きく進めました。教育面でも学部生に対する「社会変動論」の講義や大学院生に対する「社会学基礎論」など社会学の深い理解が必要な科目を担当されて、学部ゼミや大学院の研究指導を通じて、社会学者を含む優れた人材を育成してこられました。2007年に立教大学グローバル都市研究所を創設し、所長（2007年7月～2011年3月、2013年10月～2014年3月）として公開講演会や大学院生を含む「グローバル都市研究会」の開催、内外の研究者との研究交流、若手研究者の受け入れや支援を行って、学際的な都市研究を推進してこられました。社会学部や研究科の卒業生・修了生のネットワークの充実に向けて社会学部・社会学研究科同窓会や立教社会学会を創設されました。さらに、社会調査法や計量研究に関連した社会情報教育研究センター長（2016年4月～2019年3月）も務められました。総合研究センター長（2009年4月～2011年3月）、教務部長（2013年4月～2015年3月）として組織運営にもご尽力されるなど、大学運営に対する貢献も多大なものがあります。心から感謝を申し上げます。

このように松本先生は立教大学社会学部に赴任されて以来、その学究的姿勢を堅持して教育や大学運営にも取り組まれ、牽引し続けてこられました。これからご健康で、研究に専心できますようお願いできません。

2021年3月

社会学部長

水 上 徹 男